

巻頭言

2011年、我が国は東日本大震災によって甚大な被害がもたらされ、経済的・心理的に揺り動かされました。人間関係の希薄さから、「無縁社会」という言葉が生まれましたが、被災地へ駆けつける多くのボランティアの姿や心温まる支援からわかるように、震災が日本人の魂を揺さぶり、大切な何かを取り戻した感があります。また、絶望と混乱から一早く抜け出した地元の高校生達が、避難場所等で誘導や防寒に活躍し、地域に大きな勇気を与えた事実も忘れてはなりません。

本校（落合・久世・真庭高校）においても生徒達が立ち上がり、久世校地で育てたお米1,000袋（3合入り）に、市内の高校生や真庭市民から集めた3,000人分の応援メッセージを添えて被災者の方に直接届け、真庭市民と被災者の方の心を繋ぎ、被災者の方に元気を届けるプロジェクト（「お見米プロジェクト」）を計画・実行しました。帰校後、生徒の話を聞くと想像していなかったような大きなものや大切なものを得たようで、このプロジェクトは大きな成果が上がったと確信しました。また、訪問・交流した宮城県農業高等学校と高校生間交流が始まり、「今、高校生にできること」について相互に考え、提言・地域参画を行うことを誓い合いました。

被災時に限らず、前向き・ひたむきで体力・適応力に優れた高校生が地域に果たす役割は非常に大きいものです。本事業「こちら高校市民課防災係」は、お見米プロジェクトの後継プロジェクトとして、高校生のパワーや存在そのものに注目し、「防災」というキーワードで企画されたものです。高校や高校生が能動的に地域参画することで、生徒は社会の重要な一員としての自覚を深め、幅広い問題解決力を養い、その他全般における学習意欲を高めることをねらいとしています。

本報告書が「防災教育」を起点に、魅力ある学校づくりや生きる力をはぐくむ教育活動のために有効に使われることを心から祈っています。

落合・久世・真庭高等学校長 常本直史